

## 論文の内容の要旨

### 論文題名

Impact of the multidisciplinary antimicrobial stewardship team intervention focusing on carbapenem de-escalation A single-center and interrupted time series analysis

(抗菌薬適正使用支援チームによるカルバペネム系薬の de-escalation に焦点を当てた活動のアウトカム評価)

### 掲載雑誌名

International Journal of Clinical Practice

Vol. 7 No. 75 e13693 2020 年掲載

薬学研究科 薬学専攻(感染制御薬学) 博士課程 鈴木 絢子

### 内容要旨

【背景・目的】薬剤耐性菌対策において、抗菌薬適正使用の推進は必要不可欠な要素である。抗菌薬適正使用支援チーム (AST) が適正使用を推進する上で、広域抗菌薬の狭域化 (de-escalation: DE) は不必要な使用を減少させる手段と考えられているが、定義が確立していないためその評価が困難であった。そこで、処方動向を明確に分類して AST によるカルバペネム系薬の適正使用活動を評価することを目的とした。

【方法】昭和大学藤が丘病院は 2018 年 4 月に AST を設置し、カルバペネム系薬使用患者を対象として処方医に対する診療支援を行った。Pre-AST (介入前 1 年間) と post-AST (介入後 1 年間) の DE 率を比較した。DE は 7 日以内の使用状況に基づいて以下に分類した: 1、治療中止, 2、狭域抗菌薬へ変更, 3、治療継続, 4、他系統抗菌薬へ変更, 5、経口抗菌薬へスイッチ。(倫理審査委員会承認番号: F2018C25)

【結果】DE 率は pre-AST よりも post-AST で有意に高かった ( $P < 0.001$ )。時系列分析で抗菌薬使用量は pre-AST で増加していたが ( $P = 0.007$ )、post-AST で切片 ( $P = 0.049$ ) と傾き ( $P < 0.001$ ) は減少した。

【考察】AST による処方医へのフィードバックがカルバペネム系薬の DE 実施を促し、不必要なカルバペネム系薬の減少に寄与したと考えられる。